

## 名古屋アイリスロータリークラブ

RID2760 THE ROTARY CLUB OB NAGOYA IRIS

ロータリーを实践しみんな豊かな人生を

Engage Rotary Change Lives

2014-15 年度国際ロータリー会長 ゲイリー C.K. ホアン

例会日: 毎週水曜日 13:00~14:00

例会場: ANA クラウンプラザ グランコートホテル名古屋

創立: 2013 年 6 月 5 日

会長: 荒山 久美



### ■ 斉唱

「我等の生業」

### ■ 司会

安井嗣博

### ■ 出席者報告

会員数: 33 名

出席者: 27 名

出席率: 81.82%

前々回 (第 49 回) 修正出席率は 84.48% (28/33)

### ■ ニコボックス報告

#### 荒山会長

先週はバタバタ状態で余裕なくすみませんでした。改めて一年間よろしくお願ひします。

#### 安井会長エレクト

タナバタ、チャリティー、ゴルフコンペ

稲葉君、細川君、ご苦労様でした。

大変楽しい一日となりました。

#### 藤森幹事

細川さん、7 月 7 日中部女子プロシニアチャリティーコンペお疲れ様でした。

#### 細川会員

中部女子プロシニア・アマチュアコンペが無事に終了しました。荒山会長、安井さん、そしてアイリスのみなさんありがとうございました。

#### 稲葉会員

中部女子シニアプロアマチャリティー大会では、みなさまに御協力頂きありがとうございました。

### 鮑尔会員

お父さんになりました。7 月 6 日 13:42 分に岩田病院にて 2940g の女の子が生まれました。お母さんも子供も元気です。これからももっと頑張らなければなりませんね。

### ■ 会長挨拶

通常例会としては事実上の第一回目になりますので、7 月は「ロータリアン意識向上月間」ということで、先週八神直前会長よりいただいた「ロータリー情報ハンドブック」から関連箇所を開いてみました。

「ロータリーは人間の外観を作るのではなく、人間の内面を作る。人は、ロータリーの中で成長することによって、すばらしいロータリアンになっていく。そして、この成長ぶりはアメリカの作家、ナザニエル・ホーソーンの素晴らしい話、『大きな人面岩』に例えることができる」という言葉から始まっておりました。

この『人面岩』は、荘厳な顔つきの人間の顔に見える岩の話で、長年にわたりインディアンにその周辺にいつか最も偉大で高貴な人物になる子供が生まれるという伝説が語り継がれていたことを題材に書かれたものです。

主人公アーネストという村の少年はこの話に深い感銘を覚え、一日の終わりには何時間もこの岩を眺めたそうです。そして、この予言通り、なんだか偉大な人物が現れるという噂を耳にしましたが、いずれの人も人面岩には及ばぬ人ばかりで結局は忘れ去られて行くのを見たことから、自分が教師になろうと決心します。彼も苦労をして成長をしていく中、「人面岩」を見続けることで、他の人が気づかないような数々の事柄を発見することになり、かれは真実を語るようになり、周りの人々から受け

入れられるようになり、ついに晩年には、「アーネスト自身が素晴らしい人面岩そっくりだ」と認められるという寓話です。

話自体は当時のアメリカのピューリタンの思想が多く含まれ、日本人には「それが何なの？」と突っ込みを入れたくもなるのですが、この話は、アーネストが「人面岩」を追求した方法が、ロータリアンに進化する方法のヒントとしてあげられているものと思います。ロータリーの考え方は、「人がどのような人生を歩み、どのような考え方をしてきたかが、その人の顔つきに現れることは、疑いの余地はありません。ロータリアンは物を考える人であることは間違いがない。かれらは、思慮深く多面的にロータリーを考え、他の人々が見つめることができないものを見つけなければならない。」と書かれていたこともお伝えしておこうと思います。

おりしも、私の好きな現代作家である内田 樹氏の新作「街場の共同体論」を読んでおりましたところ、この本が、「おとなになりましょう」とか「常識的に考えましょう」とか「古いものをやたらに捨てずに使えるものは使い延ばしましょう」とか「若い人の成長を支援しましょう」といった「当たり前」のことが書かれているのですが、問題は「この当たり前のことが通じない世の中にありつつある」との言葉から始まっており、これがおおいに私の興味を惹き付けました。

「どんどん人々が（特に社会システムの舵取りをしている人たちが）幼児化しています」と書かれているのです。「言うことがだんだん非常識になり、『変化だ、改革だ、スピード感だ』とうわずった言葉が流布し、万人がパイを奪い合う競争をしている」と言うわけです。自分のことをふり返って見ますと、たしかにそのように思います。そこで、内田氏は「まあ、そうカリカリ焦らず、お茶でも飲んでゆっくり考えましょう」と呼びかけています。

たいへんお忙しい会員の皆様に、「ゆっくりとお茶でも飲んで」はたいへん心苦しく、また申し上げにくいところですが、まさに、冒頭に申し上げましたように、この例会を始めロータリーの活動を通して、ともに「真のロータリアンに進化したく」、私たちが人間的に成熟するた

めの一つのヒントとなればうれしいと考え、週に一度の貴重なお時間を拝借させていただきたいと思っております。

この一年をかけて、アイリス・ロータリークラブの例会が、その役を果たせるよう、微力ながら舵取りをさせていただきたく、改めまして皆様のご協力をお願いし、挨拶とさせていただきます。

## ■ 幹事報告

1. 各委員長より年度計画の発表がありました。
2. 次回、第 52 回 7 月 16 日（水）は、鈴木会員と伊藤会員に卓話をお願い致します。